

じんしん
壬申検査

150年

令和4年度 福島県立博物館 保存科学講座

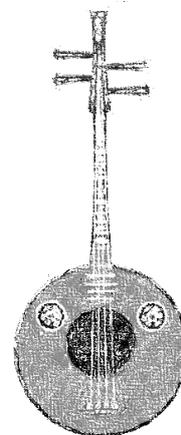
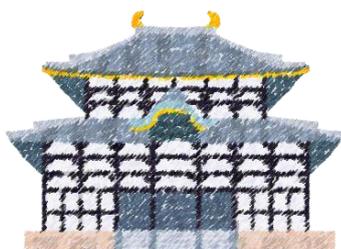
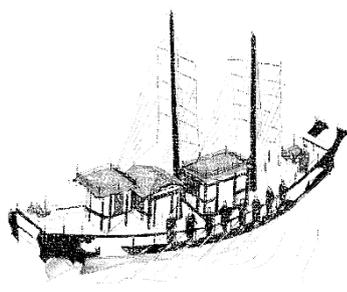
正倉院宝物の保存の歴史をまなぼう!

奈良・正倉院には、奈良時代の美術工芸品や東大寺の儀式で使われた品々が正倉院宝物として大切に保存されています。正倉院宝物の近代的な保存の歴史は、明治5年(1872年)まで遡り、文部省の博覧会事務局が正倉院宝物などを調査し、拓本たくほんをとるなどして記録をのこしたところから始まります。このときの調査は、旧暦ろうじっかんし(六十干支)の壬申じんしんの年に実施されたため、じんしん壬申検査と呼ばれています。

この講座では、小・中学生向けに、正倉院宝物を題材に壬申じんしん検査についてお話し、拓本たくほんをとる体験をします。

- 日 時 令和4年 8月 20日(土)
1回目 10時00分～11時30分
2回目 13時30分～15時00分
- 講 師 杉崎 佐保恵さほえ(当館学芸員)
- 会 場 福島県立博物館 実習室
- 参加費 無 料
- 定 員 各回 3組9名(小・中学生と保護者、要申込、先着順)
- 持 ち 物 筆記用具、拓本をとりたいものをご持参下さい。

7月20日(水)より
電話(0242-28-6000)または
受付カウンターで受け付けます。



新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更になる可能性もありますので、予めご了承ください。

ご参加の際はマスクの着用にご協力ください。当日体調に不安がある場合は参加をご遠慮ください。